



Salamat Po=ありがとう。たくさんの感謝の気持ちを忘れずマニラの様子を伝えていきたいと思います。

いよいよ次年度の準備が少しずつ始まる日本人学校。新派遣者も決まり、最後のまとめに毎日奮闘中です。

フィリピンの教育事情から学ぶこと

今年度、現地の学校を何校か訪問しました。フィリピンの教育現場から日本の教育に生かせるものがないかという狙いです。フィリピンの教育を調べていると様々な問題があったのだと気がつきました。今回は訪問から感じたことの中から2つピックアップして記事にしたいと思います。

<その1 英語教育>

英語の盛んな国として有名なフィリピンであるが、英語教育については参考にするべき所は多いです。2016年度のフィリピン全土の新カリキュラムより、高学年の算数は全て英語で行うことや、全校で行われる行事の際は英語でのアナウンスは英語でするようになりました。しかし、今回見学したある学校では、語学力の低さ故に算数の習熟に困難が見られたり、アナウンスも理解できない子たちは「指示を聞かなければ」という意識が低くなっています。日本でも小学校での英語教育が本格的に始まります。グローバルな子ども達を育てる一つの資質として「英語を話せる」ことは大切になってくると思います。しかし、指導する教師にそのスキルがなければ子どもに力がつくはずは無く、今後小学校教師の英語力が求められる時代になるかもしれません。このフィリピンの英語教育の中から参考になる部分を生かし、実践に繋げていきたいと思っています。(フィリピンの母国語は、タガログ語やビサヤ語)

<その2 モラル教育>

フィリピンの学校では、毎日モラル教育を行っています。この教育の主な单元としては、家族・仲間・勤労・愛国心・国際社会・信仰があげられます。今回、訪問した際も小学2年生では、病気になった時の看病の仕方・声のかけ方について勉強していました。このモラル教育については、右のようなテキストがあり、約100ページにわたり学習しています。この国に来て、フィリピンの家族や仲間を思う気持ちの強さに驚かされると同時に素晴らしいと感じることが多いです。その背景には、こうした小さい学年からの徹底したモラル教育の積み重ねがあったからだと考えます。日本の小学校において次年度から道徳科の教科化が始まります。この道徳科を見直す中で、フィリピン国内で行っているモラル教育を参考にする価値はあるだろうと今回感じました。



病気の家族に何が出来る？という問いにたくさん意見を出していました。